

No.14

2003. 3. 1

# 地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行 特定非営利活動法人  
地球の木 理事会  
■発行責任 横川芳江  
■編集 広報部  
■事務局 〒231-0032  
横浜市中区不老町1-3-3  
フェニックス関内2F  
TEL 045-228-1575  
FAX 045-228-1578  
E-Mail: CZR10753@nifty.ne.jp  
http://homepage1.nifty.com/EarthTree

## CONTENTS

- メコンの奇跡よ永遠に ●今、平和が一番近いといわれた国で ●ニューリッチマン真鶴に飛ぶ
- 支援地から ●ネパールを抱いて ●シティネットセミナー2003に参加 ●活動日誌 ●INFORMATION



## メコンの奇跡よ 永遠に

理事 小泉 恵子

### 国家再建の牽引車はNGOの若者たち

1992年9月UNTAC(国連暫定行政機構)の一員として自衛隊が初めて海外に派遣された時、その活動を確かめようと生活クラブ生協神奈川は「カンボジア市民調査団派遣のための実行委員会」を作り8名の女性をカンボジアに送りました。私はその一員としてカンボジアの地をはじめて踏んだのです。ある友人は般若心経を書いて持たせてくれました。まだ、内戦の火種がくすぶり、首都プノンペンにロケット砲弾が打ち込まれたなどという記事が日本の新聞に出て留守家族が心配をしたものです。高速道路や冷房のきいたショッピングセンター、巨大な空港を持つタイのバンコクからほんの1時間、飛行機で降り立った所は、緑の大地に赤茶けた道、バイクと自転車が行き交い、古いビルに弾痕もそのままに、路上生活の子どもや銃を持つ兵士で騒然としたプノンペンの町でした。1975年から始まったクメール・ルージュによる虐殺と破壊の4年間、それに続く80年代、国際社会からの支援が全くないままの国づくりという苦難の歴史の中、唯一NGOに集まる各国の若者がカンボジアの人々と共に国の再建に懸命に努力したのです。

1992年にはカンボジア国内NGOのCCC(カンボジアNGO協力委員会)代表も参加して東京でカンボジア復興閣僚会議が開催されました。1993年、国際社会が見守る中での総選挙の実施で9月にはカンボジア王国憲法が制定されました。

2000年夏、私は地球の木プロジェクト調査のため再びカンボジアを訪問しました。急激な市場主義経済の導入で貧富の差が開き、農村を捨てた人々が都市周辺にスラムを形成しつつありますが、戦いのない日々は、子どもたちの夢を広げています。エイズの蔓延や貧困という厳しい現実

もありますが、活発な女性たち、意欲ある若者たちに出会い、訪問した私たちが励まされる思いをしました。

### 奇跡を起こすのは誰？

内線終了後のカンボジアにおける平和の達成は「メコンの奇跡」と言われているそうです。戦争で親兄弟を失くし、自らも死線をさまよった人々は、二度と戦争はしたくない、という強い思いと共に、選挙が確実に世の中を良くするという実感をもっています。

「宇宙船地球号」という認識が多少とも広がってきてはいますが、資源の奪い合いは、水面下で続き、正義の名のもとにまたもや戦争の二文字があちこちで踊っています。日本でも報道の様子が好戦的、挑発的であったり、主要な食材にまで、遺伝子組み替えが行われていること、能力あるものだけが評価され弱者は切り捨てられる傾向など、いよいよ自分の足元が危うくなっていることに気付かずにいられません。地球の木で、様々な国の戦争や貧困、自然破壊の現状とそれらに取り組む人々の存在を知るにつけ日本の姿かたちがあぶり出されてきます。12年前、カンボジアに行った時にNGOの若者に突きつけられた「日本の国民は無知すぎます」の言葉に少しでも答えてきたつもりですが、ここへ来て再び、日本人としての態度を迫られる時がきているように思われます。今このとき、巨大資本に負けない市民の力で継続した支援を行い、女性や若者たちが達成しようとしている自らの力での国作りを応援しようではありませんか。

まずは身近なところで小さい集まりをしましょう。小さな力を集めて、自分たちの提案を大きな声にしていきましょう。



# 今、平和に一番近い といわれた国で

地球の木理事長 横川 芳江

## ●カンボジア・タイ大使館襲撃事件●

今年1月29日にカンボジアでタイ大使館が焼き討ちされるという事件が起きました。9.11以降、世界各地で紛争が続く中、最も「戦争」から遠のいている国と考えられていたカンボジアだったのに、大きな衝撃を受けました。発端はタイの人気女優が「タイのものだったアンコールワットを奪ったカンボジア人は嫌い」と発言をしたという報道によるものですが、本人は否定、情報源もはっきりしていません。ブノンペンで抗議集会が開かれるなか、「タイのカンボジア大使館員が殺された」という誤報が伝わり、タイ大使館は焼かれ、タイ系の商店が破壊される騒動となりました。美しかったロイヤルブノンペンホテルも廃墟と化しているそうです。

現地からの報告では、その夜、断続的に銃撃の音が響き、携帯電話は通信不能で、緊急時の連絡が出来なくて、不安な面もあったとのことでした。しかし、ブノンペンの町全体は静かで、普段どおりの生活がおくられています。

## ●クメールの誇り●

今回何故このような事件が起こったのでしょうか。カンボジア人は反ベトナム感情は強くても、タイに関しては近代的な文化や生活にあこがれている面もあり、それほど感情は悪くありませんでした。しかし、アンコールワットは繁栄を極めた「豊かなクメール」の象徴であり、誇り高きカンボジア人にとって心のよりどころなのです。アンコールワットこそクメールの誇りそのものであり、ここを侮辱されたとなるとカンボジアそのものを否定されてしまうことになりかねません。

今回事件の中心になったのは、バイクを乗り回す中流層の若者たちだったようです。彼らは大学や英語学校などを出ても働くところもなく、また、エネルギー

を発生させるようなスポーツ施設などありません。タイの繁栄にあこがれながら、経済がタイ・パーツによって牛耳られている状況、「平和」はやってきたけれど、押し寄せる市場経済の中であって、「金」がなければ、なにも「豊かさ」は得られない。テレビでは「欲望」をあおるような映像が流されています。内戦の中に育ち「協調的な教育」を受けていない彼ら。そんな中での屈辱的な発言に日ごろの鬱積したものが一気に流れ出したのではないのでしょうか。

## ●NGO活動の意味●

「経済発展」を目指す政府は日本などからの援助に頼っていますが、賄賂や汚職が横行し、都会では若者たちが「夢」や「未来」を語れる場所も人も少ないのです。長く続いた内戦により精神的支えやリーダーとなる人がいないことが、この国の教育や若者の生き方を難しくしています。

NGOが農村復興に力を注ぐ意味は、「その土地で食べていくこと」「その土地で人が育つこと」に尽きると思います。地球の木が支援しているるしなでは、こうした問題を抱えながら、孤児たちが素直に育っていることが、いかにすばらしいか、大切なことかわかると思います。

カンボジア政府は謝罪し、無条件損害補償を約束しました。両国とも関係修復の交渉を続けていますので、これ以上の問題にならないでしょう。カンボジア政府は半年後に控えた総選挙を前に、この事件を取り締まることを理由に、反政権勢力の掃蕩を狙うのではないかという懸念が出ています。すでに、暴動をおおったという理由で、「反ファン・セン」を打ち出していた放送局の幹部が逮捕されました。

カンボジアの人権擁護NGOの数は少ないですが、日本からも応援していければと思います。

# ニューリッチマン 真鶴に飛ぶ

質問者(Q)：米林 大作  
ニューリッチマン(NRM)：？



**Q** 昨年11月、神奈川県立自然公園真鶴の森へ、地球の木のメンバーといかれたようですが。

**NRM** 行ったよ。イワシのミリン干しを買ってきた。6枚で確か300円。

**Q** そういうことではなくて、森の話をして欲しいんです。

**NRM** 山の斜面のみかん畑、キラキラ光る海。真鶴駅を降りて道を下ると視界が急に開ける。港、船、そして昔は照葉樹林におおわれていた半島が現れる。

**Q** かなりやる気あるんじゃないですか。でもタクシーで森まで行ったと聞いてますが。

**NRM** そう、みんな忙しいから。帰りはフィトンチッド（植物が出す殺菌物質）を浴びて森を抜け、海に出て、港を通り駅まで歩いた。

**Q** 偉そうなことを言って、台湾の森で露天風呂を求めてさまよったのはあなたでしょう。

**NRM** そんなこともあった。森林浴っていうから、てっきり森の中に温泉が湧いているのかと思った。

**Q** 真鶴の森の状態はどうでしたか。

**NRM** 森は約30ヘクタール。原生樹はシイ、クスノキ。クロマツは徳川時代、小田原藩が植林をしたらしい。ダルマ形の実をつけるアオキも多かった。林床は湿っていた方がいいんだけど、乾いていた。木にはあまりいい環境ではない。

**Q** 真鶴の森は海に接していて、「魚付き林」とも言われるそうですが。

**NRM** 海は昔から山と深い関係があったそう。高天原から神様がカササの御崎(みさき)へ降りて来た。そこで、一人の娘を見染める。その名をコノハナサクヤ姫じゃなくてクシナダ姫だっけ。とにかく山の神の娘が御崎にいる。

**Q** そんなことどうだっていいじゃないですか。新しい日本の歴史ですか。

**NRM** 古い日本の話をしてるんだけど。

**Q** 照葉樹林帯といえば、日本ではかなり少なくなったようですが、関東以西から東南アジアの山側を通り、はるかネパールまで続いているそうですね。

**NRM** そう、ラオスも含まれる。照葉樹林文化には共通するものがあると言われている。ヤマイモ、サトイモ、納豆、もちなど粘性のあるものを好む。

**Q** ラオスで、「地球の木」は森林保全に力をいれているそうですね。

**NRM** 森林といえば、ニリッチ（ニューリッチマンの愛称）にも言いたいことがある。日本は国土の約70%が山林でありながら木材の自給率が18%（2000年）。

**Q** よく言われることですね。熱帯雨林の伐採のことなども。

**NRM** 日本の南洋材輸入も問題なんだけれど、実際に輸入の一番多いのはアメリカ、次いでカナダからなんだ。カナダはアメリカをはじめ外国の会社はかなり入っている。アメリカの木材関連企業だけど、原木から製品までの一貫生産。その一つでもあるインターナショナル・ペーパーの持つ社有林は、アメリカ国内だけで神奈川県約12倍の広さがある。輸送費は、規格のコンテナで運べば、日本海側から都心へより、オークランドあたりから東京までの方が安いそう。

**Q** 非情経済社会ですか。

**NRM** 最近は欧州材も増えてきた。それも国産材の約40倍のエネルギーをかけて運んで来る。

**Q** で、どうしましょう、と言ったら、ニリッチは帰ってしまった…



## フィリピンから

### 戦いは続く2

エスペランサ農園の状況は、前回の会報に書いた時より少し変化が見られた。昨年11月には組合委員長、支援NGO代表らが、アロヨ大統領と会い、その結果、大統領は農地改革長官に対し組合員が農地に入ることができるよう指示を出した。しかし、地主側労働者は、投石をして抵抗し、農園入り口にバリケードを築き入園を阻止している。

地主に雇われた私兵が、何の警告もなく、農作業をする組合員に向かって発砲することを憂慮するアピールを、12月にアロヨ大統領に提出した。しかし、それも無視し、地主は以前と同じ状態を続けている。

その地主の名は、ケッチー・ベネディクト。彼女の父は、マルコス独裁政権の時代、駐日大使を務めたこともあるマルコスの側近で、日本企業との癒着によって莫大な富を得た人物である。

彼女は高等裁判所の決定を無視し、大統領命令をも無視できる力を持つ地主である。

こうした問題が起きるのは、法的整備がされておらず、農地改革省や大統領に地主の抵抗を封じ込める力が無く、また地主を納得させるだけの財力もないからである。しかし青少年スタディツアーで民宿したことのあるサンフリアン村は、地主との闘争もあったが、大変な時を乗り越え、土地を手に入れる事ができている。

なぜエスペランサの地主はこのように執拗な抵抗を続けるのだろうか。エスペランサは平坦で土地も豊かで、水利でも1等農地であるが、どうしてもこの土地が必要とは思えない。エスペランサの土地闘争問題は、今フィリピン国内で注目されている。大地主が権力をかさに土地解放を阻止しているのはエスペランサひとつではない。それが一気に土地解放に向かうことを、大地主たちは危惧しているのである。

この問題はフィリピン国内の問題であるが、全く私達の生活と無関係ではなく、私達も何かをしなければいけないと思う。(相模 廣瀬 康代)

#### エスペランサの人々を応援しよう

農民の生活、陳情活動をする為の交通費、弁護士費用などの支援をしたいと考えています。会員の皆さんも募金をお願いします。また引き続き、書き損じはがきがありましたら、事務局までお送り下さい。



## カンボジアから

### 子供たちに活躍の場が

カンボジアの米の収穫は主に、雨季が始まり、水が上がって来たところから種籾を撒き、早場米は9月終わりから収穫ができますが、多くは12月から本格的な稲刈りになります。今年は、雨季がなかなか始まらずかんばつに苦しめられ、カンボジア全土でも、ヘクタールあたりの収穫量が昨年より落ち込んだそうです。また、逆に洪水に苦しめられたるしな関係の試験田もありました。しかし、土地を肥沃にする有機農法の効果が、周辺の化学肥料を使っている田んぼに比べ生育はよかったようです。また、チャイルドケアセンター所有の2ヘクタールの農地からも収穫がありました。しかし、今年は実りのあるところに向かってネズミが出没し、その被害も深刻なようです。

さて、子どもたちは伝統舞踊を習い、新しく寄付された衣装を着てのお披露目や、祭りへの参加に活躍しています。また、20台の自転車も自分の自転車を決めみな大切に使用しているとのこと。それぞれリボンを結んだりして思い思いに飾り付けをしたりしています。特に高学年から通う、遠い学校への午後の通学は暑くて大変だったので、とても助かっているそうです。また、自転車に乗れない小さい子は、仲良しの子どもの後ろに乗せてもらって、通っています。チャイルドケアセンターへの入所希望者は、エイズ患者の子どもも含めあとを絶ちません。最年長の子どもが18歳になり、職業訓練を受け、自立への道を歩んでいる一方、新規の子どもの受け入れを行っていく予定です。(ほくぶ 小泉 恵子)

\*昨年、地球の木の仲介で相模原市より自転車が送られました。

## ネパールから

### 自分達のに気づいた女性達

マオイストの反政府活動が活発化し、ネパール極西部での支援活動が難しくなっていますが、その状況についてはすでに会報で何度かお伝えしています。

カウンターパートである現地NGOのSOARSは、政治的・社会的混乱の続くネパールの将来を切り拓く人材を育成するために、カトマンズ近郊に人材育成センターを建設しました。この建設資金についても会員の皆様に資金提供を呼びかけ、たくさんの支援金をお寄せいただきました。

SOARSは、ネパールの社会開発の発展を妨げているものが人々の社会的・心理的トラウマであり、トラウマを緩和させることが今重要であるとしてらえています。そしてそのためには地域モビリゼーション(地域を組織し、活動を作り出すこと)が最良のツールであるとしていくつかのプログラムを計画しました。ネパールプロジェクトの2002年度の計画では、そのプログラムの中の、「対立を管理するトレーニング」「NGOリーダーを対象としたコミュニティ・モビリゼーション・トレーニング」「女性の小規模起業家と貯蓄グループの強化トレーニング」を支援することを決めました。

人材育成センターは、2002年10月1日から運営を開始し、民主的な選挙を行うためのトレーニングを皮切りに、すでにいくつかのトレーニングやフォーラムを実施しています。地球の木が支援するプログラムも2つ終了、トレーニングに参加した女性グループリーダーは、「自分たちで地域社会を変えられる気がする」と力強く語っています。

野菜農家の女性は「化学肥料を使って収穫を増やすより、堆肥を使って消費者に受け入れてもらう方が収入を上げることがわかった」と感想を述べていました。

「自分たちの能力に気づくことを通して自らをエンパワーする」ことを目的とする人材育成センターの活動に、私たちネパールチームメンバーも大いに力づけられています。

(なんぶ 真矢 公子)

## ラオスから

### 村の生活は変わった? プロジェクト評価が進行中

現在、ラオスのカムアン県において地球の木の皆さんから支援を受けているJVC農村開発プロジェクトに対しての評価活動を進めています。JVCが活動をしている29の村から15の村を選んで、JVCによる森林、農業、ジェンダーの活動が村にどのような影響を生んでいるのか、目標はどこまで達成できているのかを調べてきました。



村の長老からは、「昔は、森には鳥・獣・林産物がたくさんあったが、今は2、3日山に入っても、鳥1羽捕ることができない時もある」と昔を懐かしむ声が聞かれました。それでも、行政と村人とJVCがいっしょになって規則を作ることによって、勝手に木を切ったりすることが少なくなっています。女性からは、「以前は売る分も森から採取してきたが、今は家族の食べる分だけにしていく」との声が聞かれました。

また「植林をさせてほしい」「木を売ってほしい」と会社の人間が来ることも多くなり、村のみんなでも相談して対処する心構えも生まれました。一方で、村長が勝手にユーカリの植林をする権利を会社に与えて、村からなくなった例もありました。会社が県の伐採の許可証をもってくると、内容をよく確認せずにサインをし、後悔してJVCに相談したり、無力感におおわれることも出てきました。権威を持った者どう対処していくか、村人が十分に情報をつかんでから判断するための支援が不可欠だとJVCは感じています。

また、ジェンダー研修を受けて、「相手のことを考えるようになった」「協力しやすくなった」という声が男女から聞かれる一方で、「会議に出ても言うだけの考えを持っていないので、どうしても足が向かない」という女性の声も聞かれました。また「お金の余裕ができると夫婦げんかをしなくなった」という考えさせる話もありました。今後も考える為のいろんな「仕掛け」が必要だと考えています。

この後、カムアン県の役人、村人などプロジェクトに関係する人たちを支援して、プロジェクトの結果について意見を交換し、今後の活動の方向性を決めていくこととなります。(JVC東京事務所 ラオス担当/塚本 和泉)





SOARSの人材育成センターが完成し、トレーニングやグループ活動で活気づいています。会員で、ネパール・スタディツアー2000に参加した中村啓子さんが昨年末、センターを訪問しました。

## ネパールを抱いて

中村 啓子

2002年秋、仕事に追われる日々。ネパールに発つことを決めた。厳しく優しい自然と、温かく熱い人々と、そして、空虚な消費に埋没している自分との対話を通して、宙に浮かせたこの右足をどこに着地させたらいいのか、見極めたかった。

12月26日、トリバン空港出口。車道を挟んだ向こう側の人ごみの中に、懐かしい顔。こちらに手を振るシュレスタさんを見つけた。さっそく人材育成センターへ。ニルマラさんらが出迎えてくれ、センター内を案内してくれた。清潔感漂う機能的なゲストハウス、といった印象を受けた。

その日は、4日間続いたコミュニティ・モービリゼーション・トレーニングの最終日。参加者の女性リーダー約30名と意見交換をした。「地球の木のメンバーとしてあなたは何をしていますか?」「会費を払ってニュースレターを読んでいるだけ。横浜が自宅から遠くてあまり活動には参加していません」、「日本の地域組織はどのようにして発展していったのですか?」「今は個人主義の人が多くなり、共同体は拡散傾向。今一度地域に根ざした組織作りが大切だと感じています」質問に答えていく中で、自分のことと仕事しかしていない「私」が浮き彫りにされ、地域の代表者である女性達の前にいることが場違いのような気さえしてきた。

30日の晩には、青少年グループによるパーティが計画されていた。近隣に住む、小・中・高校生ら約30名が集まり、歌や踊り、ジョークや絵などを披露してくれた。リーダーのアシス君が見事に会を進行し、小さな子ども達も生き生

きと自分の才能を発揮していた。近所の女性達10名ほど交えて、楽しいひとときに。私も『おぼろ月夜』と『上を向いて歩こう』を歌った。

男子高校生達は、習った英語を駆使して、熱心に質問をしてくれた。「1回目と2回目とでは、ネパールの印象は違いますか?」「今回の方がネパールのよさをたくさん理解できます」、「日本の友達と交流できますか?」「是非考えてみましょう」

31日、帰国の日の朝。ニルマラさんのお宅へ。「メロ チョリ(私の娘)」と言って手をさすってくれたお父さん。真っ赤なティカを丁寧に額につけてくれたお母さん。花束を手渡してくれた姪っ子さん達。みんなと並んで撮った写真は、今は大きくプリントし私の部屋に飾ってある。一番大切な写真。

いつもは、旅から帰るとその新鮮な気持ちはやがてまた日常に消えていってしまう。どんなに強く感動した時の心の震えさえ、実感を伴わない単なる「事実」に変わってしまう。でも、今回は違う。1ヶ月たった今もなお、私の心にはいつもネパールが存在する。シュレスタさんやニルマラさん、グループのみんなと交わした言葉が、いつも私を包んでいる。いつときも夢を忘れないで強い信念と意志で一歩一歩進んでいる彼らの、その姿を、私もいつときも忘れられない。

帰国後しばらく寝かせておいた体験を「言葉」として目覚めさせてみた。「子どもの心の真ん中に語りかけよう」「自分の内なる声を素直に聴こう」「簡素で自然で満ち足りている生活を送ろう」この3つの決意が、いつも私を離れないで励ましてくれている。

浮かせた右足をどこに着地させたらいいのか、もう迷わない。ネパールを抱きながら生活できる今の自分をとっても幸せに思っている。(東京都小学校教員)



人材育成センターでの談笑





# シティネットセミナー2003に参加

## 国際セミナーで地球の木も報告

### 各国各地域の事例から学ぶ

今や世界中で経済開発が進み、環境破壊やゴミ等の大きな問題が生じ、自然環境や都市環境は悪くなっていく一方です。人間や生き物にとって住みよい社会を築いていくには、一人ひとりがこのような問題に関心を持ち、できることから始めなければなりません。

2月1日から3日まで横浜シンポジウムにおいて、シティネットセミナー2003「パートナーシップで築く国際協力」が開催されました。このセミナーは、アジア各地域で、NGO・行政・企業がパートナーシップを組み、どのように都市の発展と環境保全に向けた行動を行っているかを、お互いがその具体的な事例報告から学びとり、行動しようとするものです。

バングラディッシュのダッカ市からはNGOとともにゴミ収集と分別を行っていることが、フィリピン企業ユニリバーフィリピンからは、NGO・自治体・学校・メディアとの都市美化キャンペーンが、霞ヶ浦からは、NPO・漁業組合・農業組合・国土庁との自然環境保全等々が報告され、参加者からも積極的な意見や質問が出されました。

### 皆で手を取り改善を進めよう

地球の木もパネリストとして参加し、行政や学校との国際協力に関してのパートナーシップや、JVCとの連携でのラオス森林保全プロジェクトについて報告しました。そして、アジアの森林伐採による環境破壊と日本との関係や、日本のものの豊かな生活を見直すための地域活動のことを参加者に伝えました。

環境問題は、一つの地域の問題ではなく、グローバルな視野にたって、さまざまな国や地域で協力体制を築きながら改善し解決していくことが必要です。地球の木でも、さまざまな組織や団体とパートナーシップをとり、支援プロジェクトを通して見えてくるアジアについて考えていきます。（事務局長 飯田 信子）

## ことば

### シティネット

シティネット（アジア太平洋都市間協力ネットワーク）とは、太平洋地域の20ヵ国76都市、国際機関やNGO団体が、都市整備や環境、貧困などの都市問題を改善解決するための非営利ネットワーク組織です。

### 活動日誌（11月～2月抜粋）

- |            |                          |
|------------|--------------------------|
| 11月22日、23日 | 「中小規模マネジメント研修」に参加        |
| 26日        | オルタ館フェスタに参加              |
| 29日        | 藤沢市教育研究会に参加              |
| 12月 8、9日   | 「中小規模マネジメント研修」に参加        |
| 11日        | 「森の香りのクリスマス・リース」講習会      |
| 16～19日     | 「トンボ玉でヘンプ・アクセサリーを作ろう」講習会 |
| 14日        | 「NPOのためのパソコン講座」開催        |
| 18日        | 理事会研修「フィリピン・エスペランサの土地闘争」 |
| 1月11日      | 「総合的な学習の時間授業づくりセミナー」参加   |
| 16日        | カンボジアについて外務省との話合い        |
| 19日        | なんぶインターナショナル・ニューイヤーパーティ  |
| 26日        | 鶴見国際交流まつりに参加             |
| 2月 1、2日    | シティネットセミナー2003に参加        |
| 8日         | 学習会「プロジェクトを知ろう」          |
| 11日、22日    | 「メディアリテラシー」連続講座          |



## カレンダー報告～今年度もありがとう

2003年版地球の木カレンダー「大地」は、好評のうちに早々と完売することができました。たくさんの方々にご協力をいただき、ありがとうございました。

会葬御礼にと350部以上もご活用くださった方もいらっしゃいました。販売部数は、2,043部、収益は97万円でした。必要経費を差し引き、地球の木の各支援地に送られます。



### 市民活動フェア

#### 出会い、つながり、私にできること

日時 3月15日(土) 16日(日)  
10時～16時  
場所 かながわ県民サポートセンター  
(横浜駅西口三越そば)

展示、映画、フリーマーケット、模擬店、体験コーナーなど。地球の木もブースを出し、ラオス報告会のセミナーを開きます。ぜひご家族連れで遊びに来てください。

### あーすフェスタ2003

#### 「みんなで育てる多文化共生」

日時 5月10日(土) 11日(日)  
場所 地球市民かながわプラザ  
(JR本郷台駅徒歩3分)  
外国籍県民、NGOの協力のもと、人と人との交流をはかります。世界の民族料理の屋台や民芸品、工芸品のバザーなどがあります。

### ラウンジまつり港南

日時 3月16日(日)  
場所 ひまわりの郷(ウィング上大岡4F)  
(京急・地下鉄上大岡駅)

地球の木では、アジアのグッズを販売します。気軽にお立ち寄りください。



### 総会のお知らせ

日時 5月25日(日)  
場所 オルタナティブ生活館  
(新横浜駅徒歩7分)  
多くの方の出席をお待ちしています。詳細は同封のちらしをご覧ください。

### 助成金を受ける

アース仏教国際協力ネットワークよりネパール・プロジェクトへ305,500円の助成金を得ることができました。

### 募金キャンペーン報告

多くの方々の賛同を得て、ネパール人材育成センターに229,292円、カンボジア・チャイルドケアセンターに124,800円、KOREA子どもキャンペーンに211,414円が集まっています。ありがとうございました。

引き続き募金を受け付けていますので、ぜひご協力をお願いいたします。

### ご寄付ありがとうございました

佐藤とも子・田中博美・竹村千恵・安藤啓子  
齊藤寿治・杉山純子・清水恭子・今永千恵

### 事務局スタッフ募集中(若干名)

国際協力に関心のある方で簿記3級以上または実務経験のある方、パソコン(ワード、エクセル、インターネット)のできる方、アジアの民芸品の収益事業に関心のある方  
問い合わせは地球の木事務局まで

### 地球の木とは、

地球上のすべての人々が自然と共存し、人が人らしくあたりまえに生きていくことが出来るように、地域と地域を結ぶ国際協力活動を行ない、相互理解を深める社会教育活動を通して、お互いの人権を尊重し、それぞれが自立した生き方を創造することを目的としています。

### 事務局よりお願い

- 転居される場合は新しいご住所を必ずご連絡下さい。
- 会費の自動引き落としをご希望の方はご連絡下さい。